

幼稚園は子どもがはじめて出会う学校です。

2007年6月に学校教育法が改正され、学校教育は幼稚園から始まることが明記されました。また、幼稚園教育要領の改訂では、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続の重要性について示されています。

幼稚園では「遊び」を重要な学びの場として取り組んでいます。子どもは楽しく遊ぶことで、その遊びの中から様々なことを学び、創造力を高め、感性を豊かにし、基本的な生活習慣を身に付けます。幼稚園の遊びの中には、ことばや数、社会性や自然環境が含まれ、小学校以降の学習の基礎を培います。

しかし、「小1プロブレム」の言葉に代表されるように、小学校1年生の入学直後の課題が問題になっています。授業中立ち歩く、話しを聞かない、おしゃべりが多い、落ち着きがない、床に寝そべる、担任の先生の指示通り行動しない等の状況が入学式後数ヶ月経っても続いているような状況のことであります。

幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続は今後の幼稚園教育に欠かせない取り組みですが、小学校教育の先取りをすることではありません。幼稚園は幼児らしい活動をしながらか、そこに出現してくる次の時期へ伸びようとする力を育てるところです。

本園では、小学校への円滑な接続のためにまず取り組むべきことは、幼児教育そのものの充実を図ることだと考えています。

そこで、幼稚園教育要領で「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」として示された10項目の中から5つを重点化し、特に意識して幼稚園での生活全体を通して育てていきます。

今後、小樽幼稚園では、次に示す流れ・内容で小学校との接続の充実に取り組みます。



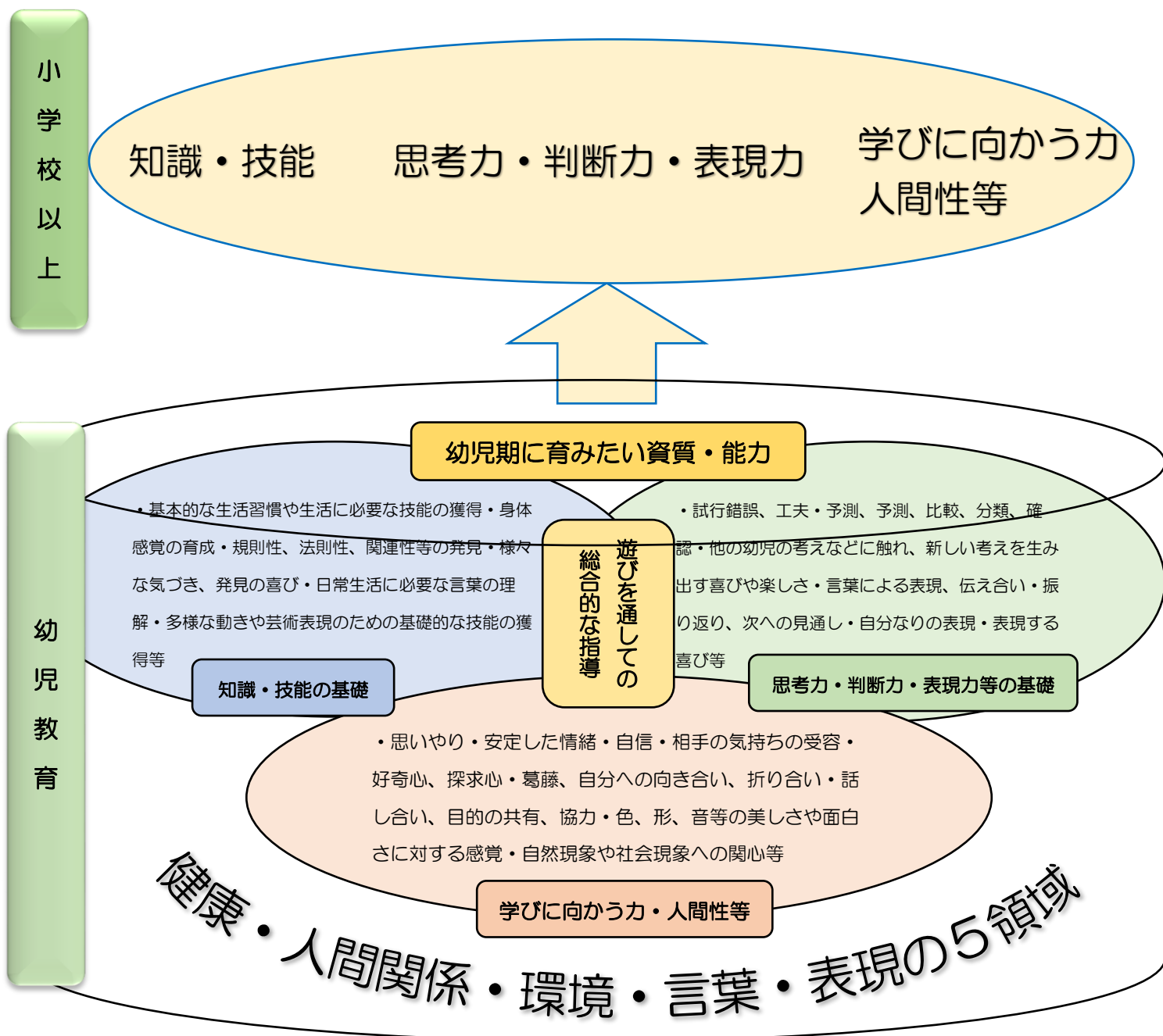
小学校につなげます

2017年3月、「幼稚園教育要領」の改訂により、子どもに育みたい資質能力である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の三つの柱が、幼児期から18歳までを見通して系統的に示されました。

幼児教育においては、これら三つの資質能力を、遊びを通して総合的な指導を行う中で育みますが、小学校以降では、教科等の指導で育むことになります。

遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ等の児童期の教育課程は内容や進め方が大きく異なります。これまで大切にしてきた幼小連携の視点に加え、幼児期の学びを児童期につないでいくことが、これまで以上に求められています。

幼児教育から小学校への接続を円滑にするということは、小学校教育の先取りをすることではありません。幼児教育においては、就学前までの幼児期にふさわしい教育を行うこと、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことが重要になります。



【幼児期において育みたい資質・能力】

教育を通して子どもが身に付けようとする事柄の中核を資質・能力と呼びます。
幼児教育において具体的には「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」
「学びに向かう力・人間性等」が育みたい資質・能力となります。

<p>「知識・技能の基礎」 遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、幼児が自ら感じたり、気づいたり、分かったりできるようになったりすること。</p>	<p>【キーワード】 気づく できるようになる</p>
<p>「思考力・判断力・表現力等の基礎」 遊びや生活の中で、気づいたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすること。</p>	<p>【キーワード】 試す 工夫する</p>
<p>「学びに向かう力・人間性等」 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとすること。</p>	<p>【キーワード】 ねばり強く取り組む 挑戦する</p>

幼児教育において育みたい資質・能力は、何か特定の活動をすれば必ず育まれるというものではありません。一つの活動の中にも一人一人異なる学びがありますし、様々な遊びを通して一つの学びが深まっていくこともたくさんあります。遊びを通しての総合的な指導の中で一体的に育てていきます。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

この度の幼稚園要領の改訂により、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が示されました。5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」です。

この姿は到達すべき目標ではありませんし、個別に取り出されて指導するものでもありません。また、個人差が大きいものでもあります。教師は遊びの中で幼児が発達していく姿を、この「10の姿」を念頭において捉え、一人一人の発達に必要な体験が得られる状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導の際に考慮します。

<p>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」</p>	
<p>①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活とのかかわり</p>	<p>⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現</p>

【小樽幼稚園で小学校に向けて大切にしたい5つの姿】

「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」として示された10項目のどの姿も等しく大切に育んでいきたいものですが、小樽幼稚園の教育目標と子どもたちの現状を考え合わせ、特に5つを重点化しました。

入園から卒園までを見通し、保育計画の中に盛り込み、特に意識して幼稚園での生活全体を通して育むことにより、小学校生活のスタートがより円滑に、充実したものになるようにと考えています。

小学校につなげる5つの重点

聞く力・話す力を身に付けよう
楽しく体を動かそう
力を合わせよう
決まりを守って生活しよう
数に親しもう

「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ①健康な心と体 | ⑥思考力の芽生え |
| ②自立心 | ⑦自然との関わり・生命尊重 |
| ③協同性 | ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| ④道徳性・規範意識の芽生え | ⑨言葉による伝え合い |
| ⑤社会生活とのかかわり | ⑩豊かな感性と表現 |

幼児教育において育みたい資質・能力

知識・技能の基礎 思考力・判断力・表現力の基礎 学びに向かう力
人間性等

<聞く力・話す力を身につけよう>・・・「言葉による伝え合い」

幼児期に豊かな言葉に触れ、言葉による伝え合いを重ねることは、小学校の生活や学習において、友だちと互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿や、自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする姿などにつながっていきます。

＜楽しく体を動かそう＞・・・「健康な心と体」

幼児は、自己を十分に発揮して遊びや生活を楽しむ中で、体を動かす気持ちよさを感じたり、生活に必要な習慣や態度を身に付けていきます。こうした積み重ねを通して、自分のやりたいことに向かって、繰り返し挑戦したり諸感覚を働かせ体を思いっきり使って活動するなど、遊びや生活に見通しをもって自律的に行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになります。

こうした幼児期の活動は、小学校生活において、時間割を含めた生活の流れが分かるようになると、次の活動を考えて準備をしたりするなどの見通しをもって行動したり、安全に気を付けて登下校しようとする姿につながります。また、自ら体を動かして遊ぶ楽しさは、小学校の学習における運動遊びや、休み時間などに他の児童と一緒に楽しく過ごすことにつながり、様々な活動を十分に楽しんだ経験は、小学校生活の様々な場面において伸び伸びと行動する力を育てていきます。

＜力を合わせよう＞・・・「協同性」

幼児は、友だちと関わる中で、様々な出来事を通して、嬉しい、悔しい、悲しい、楽しいなどの多様な感情体験を味わい、友だちとの関わりを深めていきます。その中で互いの思いや考えなどを共有し、次第に共通の目的をもつようになります。その目的の実現に向けて、考えたことを相手にわかるように伝えながら、工夫したり、協力したりし、充実感をもって幼児同士でやり遂げるようになります。幼児期に育まれた協同性は、小学校における学級での集団生活の中で、目的に向かって自分の力を発揮しながら友だちと協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組んだりするなど、友だちと協力して生活したり学び合ったりする姿につながっていきます。

＜決まりを守って生活しよう＞・・・「道徳性・規範意識の芽生え」

幼児は、友だちと様々な体験を重ねることを通して人間関係が深まる中で、決まりを守る必要性がわかり、友だちと一緒に心地よく生活したり、より遊びを楽しくしたりするために、自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いを付けながら、決まりをつくったり、守ったりするようになります。単に決まりを守らせることだけでなく、必要性を理解したうえで、守ろうとする気持ちを持たせることが大切です。このような経験は、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、生活上の決まりを理解し、守ろうとする力の基盤になっていきます。

＜数に親しもう＞・・・「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」

幼児期における数量に関する指導は、確実に数を数えられたり、正確に計算したりすることを目指すものではありません。幼児期に大切にしたいことは、遊びや生活の中で、必要感をもって、多い少ないを比べるために物を数えたり、長さや広さの量を比べたり、様々な形を組み合わせて遊んだりすることなどを通して、数量や図形への興味や関心を深め、感覚を豊かに磨いていくことです。このような感覚が、小学校における学習の生きた基盤となります。単に正確な知識を獲得することを目的とするのではなく、それぞれの場面で、活動の広がりや深まりに応じて数量に親しめるよう、工夫しながら環境を整えることが大切です。

令和2年度 小樽幼稚園各学年のテーマ

5つの重点

年少「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」

年中「自立心」

年長「豊かな感性と表現」

各学年で、子どもたちに高まって欲しい力をテーマに定め、1年間を見通したつながりのある活動を展開し、指導の積み重ねを図ります。

小樽幼稚園 幼小接続年間計画

年間目標 身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうと試行錯誤したり考えたりする態度を育てる。

		一学期	二学期	三学期
各学期に目指すもの		●園のリーダーとしての意識をもち、年下の子のお世話をしたり、仲良く遊ぶ。	●就学に向けて、学習や小学校生活への不安や緊張をほぐし、期待や見通しがもてるようにする。 ●小学生との交流を計画したり、小学校の先生等をゲストティーチャーとして迎え、幼児や保護者が話を聞く機会をつくる。	●「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、幼児の資質・能力の育ちをしっかりと捉え直す。 ●小学校の施設や教室を訪問したりして、小学校生活への期待が高まるようにする。
接 続 の 三 つ の 柱	【A】知識及び技能の基礎 気づいたり、わかったりする	○身近な環境やいろいろな素材に関わり、その特徴や意味に気づく。	○生活のなかで、文字や数や表示や標識などに関心をもって使いながら、適当な表現方法などを知る。	○園生活のまとめや引き継ぎのなかで、きまりの大切さを知り、友達と話し合ったり守ろうとしたりする。
	【B】思考力、判断力、表現力の基礎 試したり、工夫したりする	○身近にあるいろいろな素材に関わり、試したり工夫したりして遊ぶ。	○友達といっしょに新しい遊びや遊びのルールを考え、試したり工夫したりしながら進めていく。	○行事の内容を話し合ったり試行錯誤したりしながら、共通のテーマのもとに、まとまりのある活動を創り出す。
	【C】学びに向かう力、人間性等 意欲をもって、ねばり強く取り組む	○園生活のリーダーとしての意識をもったり、自分の成長を喜んだりする。	○生活のなかの情報を伝え合ったり、共同で製作したりして友達といっしょに取り組む楽しさを味わう。	○修了に向けての活動や行事などのなかで、自分や友達の成長を感じ、感謝の気持ちをもつ。

活 動 の 中 に 見 ら れ る 十 の 姿	(1) 健康な心と体	・友達や保育者といっしょにのびのびと遊ぶ。【C】 ・危険な遊び方や場所、災害時の行動の仕方を知る。【A】	・秋の行事やお遊戯会に向かう生活で、場の使い方や状況を見通して、準備したり片づけたりする。【B】	・集団生活に必要な行動を見通して積極的に活動に取り組み、小さい組の子どもたちに園生活や場の使い方を伝える。【A】【C】
	(2) 自立心	・年長児になった喜びを感じ、進んで身近な人や環境に関わっていくなかで、自分のよさや特徴に気づく。【C】	・友達と話し合ったり、励まし合ったり、認め合ったりしながらお遊戯会や秋の行事をやり遂げていく。【C】	・やりがいや責任感をもってお買い物ごっこなどの行事を皆で創り上げ、自信をもつ。【C】
	(3) 協同性	・気の合った友達や保育者との関わりを通して、相手の思いや考えに触れ親しみをもつ。【A】	・友達と共通の目標をもってお遊戯会や行事に取り組み、自分の役割や仕事を進めていく。【C】	・個々の持ち味やよさを出し合いながら、学級全体で修了行事などに取り組む。【C】
	(4) 道徳性・規範意識の芽生え	・新入園児を迎えたり援助したりしながら、園生活のリーダーとしての意識をもつ。【C】	・秋の行事やお遊戯会のなかで、ルールやきまりを守って楽しんだり、道具や用具を大切に使用したりする。【B】	・自分の気持ちを整理したり、友達と折り合いを付けながら周囲との関わりを深め、修了に向かう生活を楽しむ。【C】
	(5) 社会生活との関わり	・遠足や買い物など、地域の人と触れ合う。【A】【C】 ・園行事において国旗や国歌に親しむ。【A】	・テレビやラジオ、インターネットなどから、台風をはじめとする自然災害の情報を知る。【A】	・お正月の行事や生活の変化に関心をもち、地域の伝統的な文化に関心をもつ。【A】 ・修了に際して、親や祖父母などの愛情を感じ、家族を大切にしようとする。【C】
	(6) 思考力の芽生え	・友達や保育者といっしょに行事などの計画を立てたり、振り返ったりして、興味や関心を深める。【B】	・主体的にお遊戯会を企画したり、秋の自然物を使って遊具や造形作品を作ったりする。【B】	・遊びやゲームの説明やルールを理解したり。冬の自然現象の因果関係について考えたりする。【B】
	(7) 自然との関わり・生命尊重	・栽培や草花遊びをしたり、身近な小動物などに親しみをもって関わったり世話をしたりする。【A】	・じゃが芋などの栽培植物を収穫したり、木の実などを使って遊ぶなかで、その特徴に気づいたり生命のつながりを感じたりする。【A】	・気温の変化や雪解けなど早春に向かう自然の変化を感じ、好奇心や探究心をもつ。【A】
	(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	・母の日のメッセージや絵本作りなど、思いを込めて書いたり作ったりする。【B】 ・運動会に取り組むなかで、文字を書いたり、必要な量や数を数えたりする。【B】	・カレー作りなどで、数や量を考え準備をする。【B】 ・サッカーやドッジボールなど、得点やチームの人数を数えたり比べたりして遊ぶ楽しさを味わう。【B】	・オセロ、将棋、トランプ、かるた、すごろくなどのゲームのなかで、数えたり比べたりして競って遊ぶ。【B】
	(9) 言葉による伝え合い	・気の合った友達や保育者との言葉のやりとりを通して、相手の思いや考えに触れ、関心をもつ。【A】	・相手の話を聞いたり、自分の思いや考えなどを相手や状況に応じて話したりして、考えをまとめ、深める。【B】	・修了に向かう生活のなかで、言葉を通して心を通わせたり、思いを込めて文字に表したりする。【B】
	(10) 豊かな感性と表現	・生活のなかのさまざまな音や色、形、感触、動きなどに興味をもち、イメージを膨らませたり表現したりする。【B】	・お遊戯会のパフォーマンスなどを友達といっしょに工夫し、創造的な活動を生み出していく。【B】	・お買い物ごっこなどの行事のなかで、友だちと一緒に工夫し、創造的な活動を生み出していく。【B】